

(仮称)

自然ふれあいの森

ニュースレター 第11号

平成17年3月31日発行 発行:堺自然ふれあいの森委員会

堺自然ふれあいの森委員会報告

平成16年11月27日(土):全体活動
平成16年12月16日(土):総会及び全体活動
平成17年1月29日(土):全体活動
平成17年2月26日(土):全体活動
平成17年3月6日(土):視察研修
平成17年3月26日(土):総会及び全体活動

水田の移り変わり

繁茂したセイタカアワダチソウを刈り取って、水田を復元しました。

人力で耕し、苗(パネル3枚)から無農薬で栽培した約130kgのもち米(精米)を収穫しました。



☆冬の観察会を行いました

1月の全体活動では水田の荒起しや腐葉土の鋤込み、コナラの丘付近のネザサの切り株払いなどを行いました。また昼からは作業の手を止めて、「冬の観察会」を行いました。



☆秋の観察会を行いました

11月の全体活動では、コナラの丘の手入れと畑周辺の除草を行ったほか、餅つきスタッフの結成や境界柵設置の準備作業を行いました。

11月15日には「秋の観察会」を行いました。



☆餅つきを行いました

12月の総会では、市が行う施設整備と委員会活動との調整や、各班の活動計画について話し合いました。また、全体活動ではコナラの丘の手入れや境界柵の設置、畑の開墾、畑周辺の除草、「わら縄ない」を行った外、活動参加申請を頂いたガールスカウトの皆様とふれあいの森で収穫したもち米で餅つきを行いました。



☆開園後の管理運営に向けて

2月10日の運営会議や2月28日の臨時運営会議では、開園後の管理体制について話し合いました。

2月の全体活動では水田の荒起しや腐葉土集め、ネザサのチップ化、あらかし広場からコナラの丘に機材を運搬するためのルート整備を行いました。



☆視察研修を行いました

3月6日には、他団体の受入経験が豊富な五月山グリーンエコーの視察研修を行いました。(内面の記事をご覧ください。)

☆大阪府立大学の研究報告を行いました

3月の総会では、平成16年度の会計報告や17年度の各班の活動目標についての提案が行われ、承認されました。また、大阪府立大学の大学院生から里山の管理運営に関する研究報告を頂きました。(内面及び裏面に掲載) 全体活動では、みんなで森を歩きました。「冬の観察会」から2ヶ月しか経っていませんが、ツツジ類が早くも花芽をふくらませるなど、森は春の訪れを告げていました。

視察研修『五月山公園』

平成17年3月6日(日)に行われた五月山公園視察研修は、春を感じるばかりが随気のほかで開催されました。今回は、他団体を受け入れる際のノウハウを学ぶ為、五月山公園をボランティアで管理している団体「五月山グリーンエコー」さんのガイドによる五月山の観察や竹炭作りを体験すると共に、組織運営について質疑応答を行うなど、これからの里山づくりをより良くしていく為のいい刺激となりました。

五月山探索!

はじめに五月山グリーンエコーのスタッフの紹介、活動の概要説明を受けた後、いくつかあるハイキングコースの中から「ひょうたん島コース」を案内して頂きました。木々の間から暖かな陽光が差し、とても気持ちのよい山道を歩いて行くと、自然ふれあいの森には無い木や花を発見。「アレは?」「コレは?」とグリーンエコーのスタッフの方に何回説明して頂きました。なかでも印象的だったのが、鹿が角とぎをした後の木を発見した事。姿は見えなくても里山に生息している仲間を、このようなかたちで発見し感じとる事ができました。コース途中の山火事後地に植樹された木々はまだ若く背の低いものばかりでしたが、スタッフの方が「どんぐり中心の実のなる木を植え、どんぐりの森を目指しているんです。」と説明して頂いた時、これからの森の成長が楽しみだと思いました。また、五月山にはパートウォッチングに訪れる方も多く、渡り鳥の季節には一日に約200羽のアサギマダラが飛び交っていたそうです。頂上付近にあるひょうたん島展望台から眺める景色もまた最高!視察日のお天気に感謝。



竹炭作り体験



昼食後に行われた竹炭づくり体験は、はじめに竹炭の産出しを見学させて頂きました。ドラム缶と五月山で採れた粘土を使って作られた手作り釜に、山で伐採した竹を入れて炭焼き、(煙の色で焼き上がり分かるそうで、白→黒→透明に変わったら竹炭の焼き上がりだそうです。)見学を終えた後、いよいよ竹炭作り体験へ。竹を規定の長さのこぎりで切ったり、その竹を規定の幅に鉋で割ったり、斧を使って薪割りをしたり、出来た竹炭を規定の長さに整えて焼いたり、と、各々一連り体験させて頂きました。大きく振り下ろされた斧でまぶたにつに薪が割れる様は迫力満点で、割れる度に歓声がありました。こうしてできた竹炭は販売され、グリーンエコーの活動資金になっています。

質疑応答

質疑応答では、委員の方の真剣な質問に一つ一つ丁寧に答えていただき、里山を大切にしている人達だからこそ笑顔が絶えず、しかし真剣なやりとりの場となりました。今回五月山を視察し、いろいろな体験をさせて頂いた事で、今後の里山の管理・運営に大いに活かされていく事でしょう。



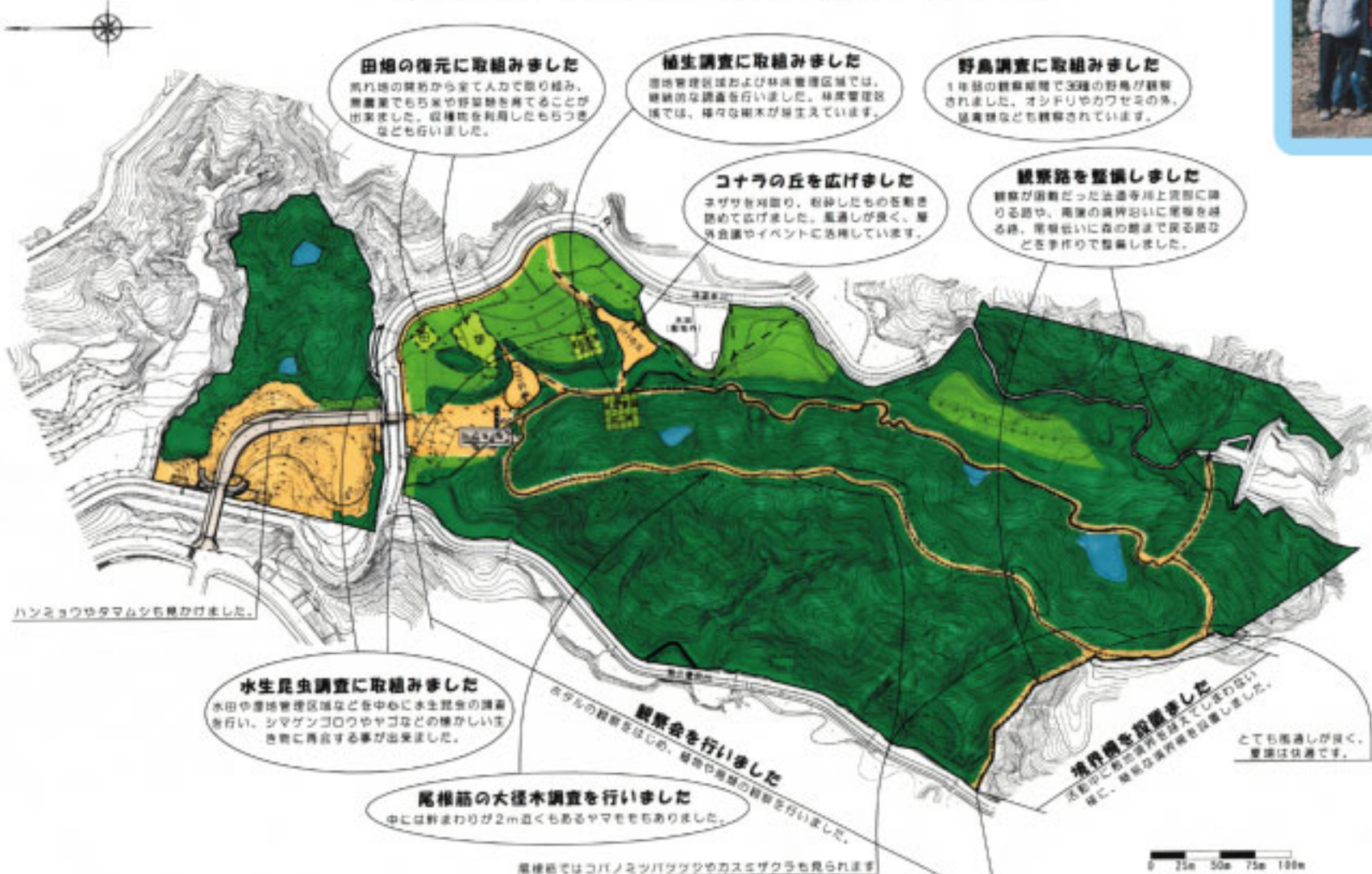
五月山グリーンエコー

池田市の公益活動団体で、大阪自然環境保全協会と池田市の協力により設立された公園管理のボランティアグループで、明るく、楽しくをモットーにアウトドア感覚で活動している団体です。山の管理作業が中心で、真田の樹木を枯らすと周囲になっている放置された竹林の伐採とその竹材を活用して炭を焼いたり、竹、木材を利用したクラフトなども行っています。



五月山グリーンエコーホームページアドレス
http://www.geocities.jp/gn_echo/index.htm

平成16年度 堺自然ふれあいの森委員会 活動マップ



※ 平成18年3月の開園までは立入りを制限しています。
委員会の活動に参加を希望される場合は、インフォメーションに記載の事務局までご連絡下さい。

岩澤氏論文要旨

大阪府立大学の大学院生、岩澤氏より3月26日の総会でふれあいの森において試験的に間伐を行った実験区についての調査報告を頂きました。以下にその一部をご紹介します。

ふれあいの森林内において間伐を行い、1年が経過しました。この1年間の林床における経過報告をさせていただきます。管理放棄によって放置された林内において間伐を行うことは、落葉樹林に再生するための植生管理として提案されてきました。今回、当年生実生(木本の芽生え)だけでも、全体で約40種、新しく出現した種が約20種となりました。新しく出現した種のうちで個体数が多かった種はアカメガシワ、ヌルデ、ヤマハゼ等があげられます。これらは、主に、攪乱跡地に依存して出現する種であり、先駆種と呼ばれる種で、一般的に間伐することによって最初に出てくるとされています。また、先駆種以外で多かった種はヒサカキ、リュウブが挙げられます。これらの種は種子が軽い為、間伐区において、リター(落

ち葉)を取り除いた場所において多くの個体数を記録しました。同時に間伐した場所に隣接する林内でも同様の調査を行いました。林内においては間伐区に比べて、出現個体数、出現種数とも少なくなりました。また、落葉樹種において、枯死率も高くなり、出現できたとしても、その後の生長には適さない環境であるということが示唆されました。このことから、今後も間伐による植生管理が必要になるのではないかと考えられます。1年目ということであり、今後の植生の変化は随時状況を見る必要があると考えられます。しかし、ヒサカキをはじめとする常緑樹種の繁茂は今後、落葉樹種の実生の定着に影響を与えられと考えられます。目指す森林像に対して、状況を考慮しながら今後も植生管理を行うことが必要と考えられます。



アカメガシワ



ヌルデ



リュウブ



ヒサカキ

※ この研究成果は今後、森の管理運営していくための検討資料として役立てていきます。



ちょっとお勉強のコーナー その9 「春に食べられる草花」

春到来、あちらこちらで植物の息吹が感じられる季節になりました。ほかほか陽気に誘われて、散歩をしながら植物を愛でる人たちも多いのではないのでしょうか。今回は見て楽しむだけでなく、春に咲く草花の利用方法を取り上げました。



セイヨウタンポポ
セイヨウタンポポは、明治時代に食用に栽培されたものが野生化し、全国に広がったものです。ヨーロッパではサラダとして食用にしますが、食べると苦みが強いです。

根っこを細かく切って乾燥させ、フライパンでいり、すりばちで粉末になるまですると「タンポポコーヒー」の完成です。コーヒードリッパーでいれて飲みます。肝臓を強くし、消化不良や便秘にも効くと言われます。



ノビル

日当たりのよい原野の土手や道ばたに生えています。春の摘み草の対象としてよく知られている植物で、傷をつける
とニラのにおいがします。地下に白い丸い球根があり、からくて強い味をもっています。小さな球根にあそを付けて食べるシンプルな食べ方がいろいろあります。



ツクシ

日当たりの良い土手などで早春に芽を出します。地下に広がる茎から出る節子茎で、先端に松ぼっくりのような形の節子茎がついています。穂とハカマをとって茹でてあくを取り、しょうゆとさとうで漬物（にづ）けたらおいしいです。

巻頭「里山大百科 いちばん身近な自然の四季」 大久保 茂樹・平野 伸明・高橋 孝

長岡氏論文要旨

大阪府立大学の大学院生、長岡氏より3月26日の総会で「社会・学校教育の一端を担う市民主体型里山保全活動の成立要件に関する研究」について報告を頂きました。以下にその一部として「市民主体型里山保全活動における受け入れイベントの成立要件」をご紹介します。

受け入れ方法

〔組織〕

- 1 中間媒体の存在。中間媒体がきっかけとなり受け入れイベントが成立する。
- 2 きっかけ作り。中間媒体となりうる団体との関係を構築するための積極的な他団体との交流が求められる。
- 3 会内での事務局機能と企画機能の設置。特に活動内容の立案や世話人の人数設定、役割分担といった企画機能を担う会員には、他の会員の個性や経歴の把握、イベント実施経験が求められる。
- 4 定例活動に対応した組織づくり。会内での研修担当の常設や多人数に対処できるボランティア保険への加入といった受け入れ体制の事前構築が求められる。
- 5 人材育成。企画担当のイベント経験を養うには、受け入れを積極的に実施している他団体への視察研修が有効である。また世話人を担える上級者を確保するため、指導者向けの講座を受講するなど、知識と技術を身につけることが不可欠である。
- 6 意思決定権のある会員が会の窓口を担うこと。依頼側・受け入れ側が迅速にイベント準備に取り掛かることが出来る。

〔空間〕

- 1 活動地での集合場所や観察ルートなどの設置。観察ルートに関しては、子どもから高齢者までが利用でき、観察しながら行動できるほど緩やかな傾斜であることとコース沿いの林相が管理の有無による違いを明確に示すように計画的に整備することが重要である。
- 2 里山という立地特性から見ても活動場所やその周辺まで車でアクセスが可能であり、かつ駐車スペースがあること。

〔実行体制〕

- 1 現地での事前確認の実施。当日の安全性の確保やスムーズな運営を可能にする。
- 2 多人数の参加者に対し活動場所の許容量に対応させて参加者をいくつかのグループに分け、作業時間や活動場所を適切に区分する実行体制の事前構築。

※ この研究成果は今後、森の管理運営していくための検討資料として役立てていきます。

問い合わせ先

堺自然ふれあいの森委員会 事務局
堺市 公園整備課
TEL:072-228-8174 FAX:072-228-1336

ホームページアドレス

http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_kouen/fureai/index.html

アクセス方法



info
インフォメーション